

地域保健研究発表会 要旨原稿作成書式マニュアル

1. サイズ A4 版 (2 段組み)
2. 枚数 A4 判 2 ページ
3. 本文
和文フォント (10.5 ポイント MS 明朝)
英数字フォント (Times New Roman)
4. 大見出し
タイトル部分の体裁を統一するため入稿後に事務局で入力・調整しますが、
18 ポイント MS 明朝でお願いします。
5. 小見出し
はじめに 対象 方法 等は 10.5 ポイント MS ゴシック 左そろえ
6. 表題は 10.5 ポイント MS ゴシック (表の上にセンターそろえ) ※別紙 3 参照
図題は 10.5 ポイント MS ゴシック (図の下にセンターそろえ) //
7. 表の罫線とフォント

表の枠外は 1 ポイント

表中のフォントは 9 ポイント以下

対象	心臓検診 受診者数	要精密 検査数	精密検査 受診数	受診率
小 1				
中 1				
高 1				

表の中は 0.5 ポイント

7. 図は
ワードの図、エクセル、パワーポイント

上余白 30mm

労働者におけるストレスの現状

—心身の健康チェック票 THI の結果からの一考察—

公益財団法人 群馬県健康づくり財団

○女屋 千代子 後閑 亮 宮崎 洋道 下村 泰久

見出し、名前のスペース 8 行分

小見出しは左そろえ
【 】等のカッコは不要

9 行目から

はじめに

平成 19 年労働者健康状況調査では、自分の仕事や職業生活に関して「強い不安、悩み、ストレスがある」とする労働者は 6 割を超えている。現代のストレス社会における「心の健康づくり」は、社会的な要請となっている。

当支部では、「心身共に健康」を目的とした「心の健康づくり事業」を平成 17 年度から新規事業として取り組み、事業内容は①支援・研修②健診・保健指導③カウンセリングの 3 つの柱を中心としている。労働者自身によるセルフケアとしては、心身の健康チェック票 THI(以下 THI)を使用している。今回、平成 22 年度の THI の結果から労働者の中でどの年代にストレスが多く、どんなストレスを抱えているのか。また、自殺の要因としても明らかになっている抑うつ度と時間外労働や抑うつ度と関係性のあると思われる 5 つの項目について

本文と図表の間は

対象および 基本的に

1) 調査対象 1 行アキ

平成 22 年度、THI を実施した 13 事業所、3,940 名（男性 2,611 名、女性 1,329 名）

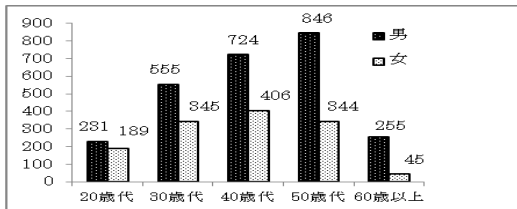


図 1 調査対象者の年齢構成

図題は図の下にセンター揃え

2) 調査方法

13 項目^{注1)}から構成されている THI の結果評価 1~7^{注2)}のうち、5 項目（多愁訴、情緒不安、抑

下余白 25mm

うつ度、身体ストレス度、心のストレス度) の評価 7 (極めて強い) の割合、5 項目中 3 項目以上評価 7 があつた割合、抑うつ度と相関する項目および抑うつ度と労働時間の相関について分析した。

3) 分析方法

単純集計後、有意差検定は SPSS15.0 を用いて分析を行った。χ²検定により有意差がみられた場合は、ボンフェローニの補正を行った。

結果

1) 5 項目の評価 7 があつた割合 (表 1)

5 項目の評価 7 と年代に有意差がみられた項目は、多愁訴、抑うつ度、身体ストレス度、心のストレス度であった。多愁訴では、20 歳代が高く 50 歳代で低かった。抑うつ度では、40 歳代が高く 50 歳代 60 歳代で低かった。身体ストレス度では、40 歳代が高く 50 歳代で低かった。心のストレス度では、40 歳代が高く 50 歳代で低いという結果であった。

2) 5 項目中 3 項目以上評価 7 があつた割合(表 2)

5 項目中 3 項目以上評価 7 があつた高ストレス者の割合は、年代による有意差はみられなかった。

3) 抑うつ度と他 4 項目の相関

表 1 抑うつ度と他 4 項目の相関

	抑うつ度	
	n	相関関係
多愁訴	3,940	0.349 **
情緒不安	3,940	0.479 **
身体ストレス度	3,940	0.281 **
心のストレス度	3,940	0.600 **

**相関関係は 1%水準で有意

右余白 20mm

表題は表の上の位置にセンターそろえ

左余白 20mm